

「Society5.0」社会実装モデルのあり方検討会 報告書(案) 概要

東京都版「Society5.0」社会の実現に向けた哲学・大義

- 【哲学】：オープン志向、ターゲット型から脱却、徹底的なデジタル化、アジャイル、地域・分野横断、大義と共感ハセット
- 【大義】：「都民QoLの向上」を第一義として据え、その下に「稼ぐ力の向上」、持続可能な開発目標（SDGs）にも寄与する「ダイバーシティの実現」を位置づける

主な方策

- データのオープン化と活用のための官民連携データプラットフォーム構築
 - データ取引の仲介（エクスチェンジのハブ機能）などをメインに実施
 - 都内中小企業・スタートアップ・起業家・NPO等に対して、無償での提供を想定
 - まずは行政から積極的にデータを出し、次に公共性の高い民間データに着手、その後幅広く民間と連携
- データ活用のための人材育成
 - 専門アドバイザー制度の導入、ICT人材の中途採用、ICT職を設けた上での若手採用、庁内の既存の人材がICTのスキルを得るためのリカレント教育の推進を実施
- 都民向けサービス実装
 - データの収集・分析とともに、行政・民間の分野を越えたデータ掛け合わせによる新たな価値の提供
 - MaaSやキャッシュレスの推進等、様々なサービス領域における社会実装の取組を推進

今後の進め方（報告書の結語）

- 「隗より始めよ」の精神で、まずは東京都から行政データのオープン化へアクションを起こす
- 都とスタートアップ・大学・研究者など、産学官でチームを組み、知を結集させ、オープンイノベーションで取組を強力的に推進する
- 定期的なローリングプランとして、テクノロジーの進化を取り入れ、構想をアップデートし、進化し続けるアクションプランを目指す